

第16回国際抗老化再生医療学会学術大会

16th Academic Conference World Academy of Anti-Aging & Regenerative Medicine

抄録集・プログラム

2025年11月30日（日）
TKPガーデンシティ
PREMIUM
横浜ランドマークタワー

2025年11月29日（土）
帝国ホテル東京

学会特別セミナー
懇親会

主催：一般社団法人 国際抗老化再生医療学会



共催：特定非営利活動法人 日本美容皮膚研究会



水素ガス吸入法の"真価"を届ける 唯一無二の業務機

10年超の臨床現場導入実績 高濃度×大流量のプロ仕様



家庭用
ハイドロオキシスパホーム



- 👑 高濃度水素20,000ppm
業界トップクラスの **高濃度×水素発生量**
- 👑 **4人同時に使用可能!**
高濃度をキープしたまま、安定して吸入できます
- 👑 10年の信頼。世界基準の安全設計
水素濃度監視+異常時自動停止
- 👑 **オキシネック吸引採用※**
首にかけるだけ、煩わしい装着はもう必要ありません
- 👑 **卓上型・家庭用ラインナップもご用意**
サロンだけでなくご家庭でも毎日の習慣として取り入れられます



※ オキシネック使用中

製造販売元 株式会社クレア

本社〒531-0071大阪府大阪市北区中津1丁目2-21 中津明大ビル7F

TEL : 06-6374-0505

FAX : 06-6374-0510

Mail : info@claire-coltd.jp

HP : <https://www.clare-coltd.jp/>

▼LINE



▼HP



BASTOR® BLEU

再生医療・幹細胞関連技術を研究し、
理想的な化粧品の開発に成功

製品一覧はこちら >

Birth of new serum

幹細胞培養上清エキステウトラナノ
ヒアルロン酸
を使った新美容液の誕生

2016年8月より発売ドクターズコスメとして、
クリニック専用商材として展開

お問合せ・ご注文

メール : info@beauwell.net
お電話 : 03-6205-4571

製品紹介



Beauwell

<ご挨拶>

2025年11月30日（日）に、TKP会議室ガーデンシティPREMIUM横浜ランドマークタワーにおきまして、第16回国際抗老化再生医療学会学術大会を開催いたします。

本学術大会においては、美容医療および抗老化医学関連の演題を含め様々な範囲の講演をご用意の予定です。

また11月29日の帝国ホテルで開催する特別講演では、美容医療において世界的に有名な上海復旦大学教授のLeihong (Flora) Xiang(项蕾红)先生、サンフィールド医院再生医療部門統括の太田裕貴先生にご講演いただき、その後懇親会を予定しております。

学術大会には、演者に美容医療および抗老化医療にかかわる医師や医療関係者をお迎えし、今後、美容医療及び抗老化再生医学の健全な進歩発展に更なる寄与をして参る所存です。

末筆ながら皆様のますますの御発展をお祈り申し上げます。



会頭 佐藤 茂



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

11月29日 懇親会・特別セミナー <会場地図> 帝国ホテル東京

住所：東京都千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテル東京

【地下鉄】

日比谷駅（東京メトロ 日比谷線・千代田線、都営地下鉄 三田線）

☞ A13出口から徒歩3分

内幸町駅（都営地下鉄 三田線）

☞ A5出口から徒歩3分

銀座駅（東京メトロ 日比谷線・丸の内線・銀座線）

☞ B2出口から徒歩12分

有楽町駅（東京メトロ 有楽町線）

☞ 徒歩7分

新橋駅（東京メトロ 銀座線、都営地下鉄 浅草線）

☞ 7出口から徒歩9分、A2出口から徒歩12分

【JR】

有楽町駅（山手線、京浜東北線）

☞ 徒歩5分

新橋駅（山手線、京浜東北線、横須賀線）

☞ 徒歩7分



11月30日 学術大会 <会場地図> TKPガーデンシティPREMIUM横浜ランドマークタワー

住所：神奈川県 横浜市西区 みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー 25階

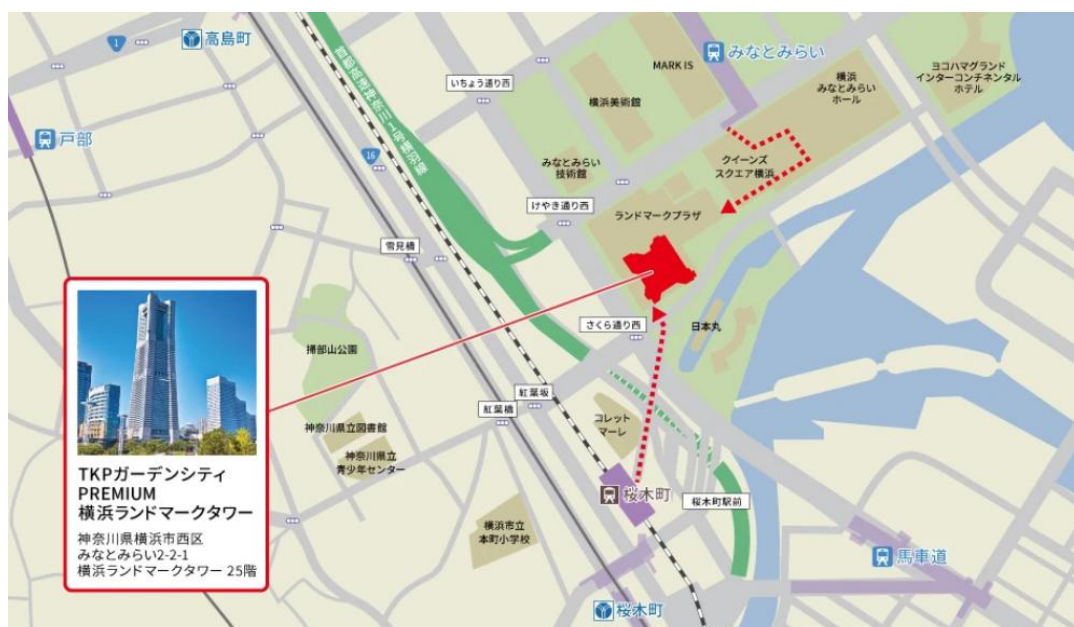
TKPガーデンシティPREMIUM横浜ランドマークタワー バンケットルームO

桜木町駅（JR京浜東北線）

☞ 北1出口より 徒歩5分

みなとみらい駅（みなとみらい線）

☞ ランドマークタワー・クイーンズスクエア方面改札口 徒歩5分



経路詳細案内



日程表

11月29日土曜日 帝国ホテル東京		11月30日日曜日 横浜ランドマークタワー	
10:00		開会挨拶	
11:00		炭酸ガスレーザーを用いた美容皮膚科治療：美容医療診療指針（改訂版）に基づく利点とリスクの再評価 10:35～10:58 【演者】須賀 康【座長】久保田 潤一郎	
		口腔から始まる抗老化医学 ― MeDeS®口内除菌と機能性歯学による医科歯科連携 ― 10:58～11:21 【演者】根深 研一【座長】佐藤 茂	
12:00		休憩 ランチョンセミナー	
		ケトンサブリと幹細胞培養上清液を使用したメンタル不調の抗炎症戦略 12:06～12:29 【演者】斎藤 耀三【座長】清水 章	
13:00		がんになる前に備える時代へ ―予防的免疫療法― 12:44～13:07 【演者】谷川 啓司【座長】斎藤 耀三	
		自己多血小板血漿（PRP）療法の現状と新しいPRP分離法 13:07～13:30 【演者】久保田 潤一郎【座長】尾見 徳弥	
14:00		休憩	
		臓器・組織の障害後の再生修復・創傷治癒過程：病理学的視点より 13:45～14:08 【演者】清水 章【座長】佐藤 茂	
		パーキンソン病の治療 ―培養間葉系幹細胞(MSCs)治療効果― 14:08～14:31 【演者】佐藤 茂【座長】清水 章	
15:00		休憩	
		抗老化再生医療業界におけるPublic RelationsとPublic Affairs 14:46～15:09 【演者】上坂 元【座長】尾見 徳弥	
		発声医学療法の可能性 15:09～15:32 【演者】野口 千代子【座長】根深 研一 佐藤 茂	
16:00		閉会挨拶	
17:00			
18:00		開会挨拶	
		特別セミナー 18:10～18:40 【演者】Leihong (Flora) Xiang(项蕾红)【座長】劉効蘭	
19:00		幹細胞治療専門施設における実践と研究：エキスパートが語る現状と未来 18:40～19:10 【演者】太田裕貴【座長】尾見徳弥	
		懇親会 19:10～20:00 【演者】桐原ユリ	
20:00		閉会挨拶	
懇親会 ピアノ演奏者 桐原 ユリ		【紹介】 ピアノ弾き語りやショルダーキーボードを用いたパフォーマンス、作詞作曲、トラックメイクなど、多彩な表現を駆使してライブ活動を展開。音大ピアノ科を卒業し、昼間は一般企業でOLとして働きながら音楽活動を続けています。破天荒なキャラクターと豊かなボーカル力、そして音大で培った確かなピアノの技術が織りなす繊細な音楽センスで、多彩なパフォーマンスを実現しています。 2021年には1stフルアルバム『Sophisticated Baby』をリリースし、2022年には大滝詠一の名曲「君は天然色」をカバーした7インチシングルレコードも発売。	
			

2025年11月29日（土曜日）帝国ホテル東京

18:10

演者：Leihong (Flora) Xiang (Fudan University Prof.)

座長：劉 効蘭（医療法人社団みき会 理事）

18:40

演者：太田 裕貴（東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター再生医学研究部、サンフィールド医院）

演題：幹細胞治療専門施設における実践と研究：エキスパートが語る現状と未来

座長：尾見 徳弥（クイーンズスクエアメディカルセンター皮膚科）

19:10 懇親会

2025年11月30日（日曜日）TKPガーデンシティPREMIUM横浜ランドマークタワー

10:30（5分）開会挨拶

10:35（23分）

演者：須賀 康（順天堂大学医学部附属浦安病院 皮膚科学 教授）

演題：炭酸ガスレーザーを用いた美容皮膚科治療：美容医療診療指針（改訂版）に基づく利点とリスクの再評価

座長：久保田 潤一郎（久保田潤一郎クリニック院長）

10:58（23分）

演者：根深 研一（医療法人社団研裕会 紀尾井町プラザクリニック歯科・美容外科 理事長）

演題：口腔から始まる抗老化医学 — MeDeS®口内除菌と機能性歯学による医科歯科連携 —

座長：佐藤 茂（国際抗老化再生医療学会 理事長代行）

11:21（45分）休憩・ランチョンセミナー

12:06（23分）

演者：斎藤 糧三（斎藤クリニック 院長）

演題：ケトンサプリと幹細胞培養上清液を使用したメンタル不調の抗炎症戦略

座長：清水 章（日本医科大学 解析人体病理学 大学院教授）

12:29（15分）休憩

12:44（23分）

演者：谷川 啓司（ビオセラクリニック 院長）

演題：がんになる前に備える時代へ — 予防的免疫療法 —

座長：斎藤 糧三（斎藤クリニック 院長）

13:07（26分）

演者：久保田 潤一郎（久保田潤一郎クリニック院長）

演題：自己多血小板血漿（PRP）療法の現状と新しいPRP分離法

座長：尾見 徳弥（クイーンズスクエアメディカルセンター皮膚科）

13:30（15分）休憩

13:45（23分）

演者：清水 章（日本医科大学 解析人体病理学 大学院教授）

演題：臓器・組織の障害後の再生修復・創傷治癒過程：病理学的視点より

座長：佐藤 茂（国際抗老化再生医療学会 理事長代行）

14:08（23分）

演者：佐藤 茂（国際抗老化再生医療学会 理事長代行）

演題：パーキンソン病の治療 — 培養間葉系幹細胞(MSCs)治療効果 —

座長：清水 章（日本医科大学 解析人体病理学 大学院教授）

14:31（15分）休憩

14:46（23分）

演者：上坂 元（米Googleアドバイザー）

演題：抗老化再生医療業界におけるPublic RelationsとPublic Affairs

座長：尾見 徳弥（クイーンズスクエアメディカルセンター皮膚科）

15:09（23分）

演者：野口 千代子（日本発声医学協会 会長）

演題：発声医学療法の可能性

座長：根深 研一（医療法人社団研裕会 紀尾井町プラザクリニック歯科・美容外科 理事長）

佐藤 茂（国際抗老化再生医療学会 理事長代行）

15:32（5分）閉会挨拶

1. 座長の先生方へ

担当講演の開始 15 分前までに、「次座長席」にご着席ください。

2. 演者の先生方へ

- 1) 講演は全てパソコンでの発表となります。
- 2) PC データ受付（会場同フロア別室）にて講演データの動作確認をお済ませの上、ご講演の15 分前までに会場の「次演者席」にご着席ください。
- 3) 発表スライドの操作はご自身でお願いいたします。
- 4) 講演時間は20 分、質疑応答は 3 分です。

3. データ受付について

- 1) ご講演の 30 分前までに、PC データ受付（会場同フロア別室）で試写を完了させてください。
- 2) 発表データをご提出いただいた場合には、発表終了後、事務局にて責任を持って削除いたします。

4. メディアの持ち込みについて

- 1) 発表データは USB メモリでお持ちください。
 - ① CD、DVD 等につきましては受け付けできませんのでご注意ください。
 - ② 不測の事態に備えて、必ずバックアップデータをお持ちください。
- 2) OS・アプリケーションは以下を使用します。
 - ・ Windows11
 - ・ Microsoft® PowerPoint® 2019 MSO (バージョン 2508 ビルド 16.0.19127.20302) 64 ビット
- 3) Mac で講演データを作成された方は、ご自身のパソコンをお持ち込みください。
- 4) フォントは Windows に標準搭載されているものをご使用ください。
(MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝、Times New Roman、Arial など)
特殊なフォントの使用は代替フォントに置き換えられ、レイアウトが崩れる可能性があります。

5. 動画音声を使用される方へ

- 1) 動画、音声を発表で使用される場合は、必ず PC データ受付にてお申し出ください。
- 2) Windows の場合、11 (OS) 及び Windows Media Player11 の初期状態に含まれるコーデックで再生できる動画ファイルをお持ちください。（動画ファイルは MP4 形式を推奨します）
- 3) 動画ファイルを使用される方は、不具合が生じることがございますのでバックアップ用としてご自身の PC もご持参ください。

6. PC 本体を持ち込まれる方へ

- 1) PC データ受付にて外部出力および PC 設定の確認の後、ご自身で PC 本体を会場内にお持ち込みいただき、発表時に PC オペレーターにお渡しください。
- 2) 会場のプロジェクターへは HDMI 端子での接続となります。HDMI 以外の接続はお受けできません。PC に HDMI 端子がついていることをご確認の上、付いていない場合は接続用の変換ケーブルをご準備ください。
- 3) AC アダプターをご持参ください。
バッテリーのみでの駆動はトラブルの原因となる可能性があります。
- 4) スクリーンセーバーやウイルスチェックならびに省電力設定は解除した上でお持ち込みください。
- 5) 念のため、発表用データのバックアップをご持参ください。



Special Lecture



Dr. Leihong (Flora) Xiang M.D, Ph.D
Professor & Vice Chair, Department of Dermatology,
Huashan Hospital, Fudan University

【Research Focus】

Melanocytes research and pigmentary skin disorders
Acne and sebaceous gland related diseases
Medical laser and photodynamic Therapy

【Work experience】

2011.7-till now Vice director, Institute of Dermatology, Fudan University
2007.10-till now Professor, Department of Dermatology, Huashan Hospital, Fudan University
2002.10-till now Vice Chair, Department of Dermatology, Huashan Hospital, Fudan University
2001.11-2007.10 Associate Professor, Department of Dermatology, Huashan Hospital, Fudan University (formerly Shanghai Medical University)
2001-2002.3 Honorary Research Associate, Division of Dermatology, Department of Medicine, Queen Mary Hospital, The University of Hong Kong
1997-2000 Attendant (senior medical officer), Department of Dermatology, Huashan Hospital, Shanghai Medical University
1992-1997 Resident (medical officer), Department of Dermatology, Huashan Hospital, Shanghai Medical University

【Education】

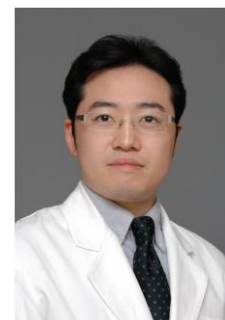
1986-1992 M.D, Department of Medicine, Faculty of Medicine, Shanghai Medical University
1994-1999 Ph.D, Department of Dermatology, Huashan Hospital, Shanghai Medical University
Jan-Apr,1995 Fellowship training, Cell Biology Institute, Chinese Academy of Sciences
Nov,1996 Fellowship training, cell molecular biology lab, Department of Dermatology, Beijing Medical University
July, 2004 Chemical peeling training program, Princeton, NJ, USA
Apr-Jun,2005 Clinical observer, Department of Dermatology, Harvard Medical School, Boston, MA, USA

【memberships in professional societies】

Vice Chairman (2017-2023), China Dermatologist Association (CDA)
Vice Chairman, Society of Dermatology, China Association of the Integration of Traditional and Western Medicine (2021-2024)
Director, National Dermo-Laser Subspecialty Group, CDA (2010-2020)
Committee member, China Society of Dermatology (CSD)
Vice director, national cosmetic dermatology group, CSD
Vice president, China Society of Minimally Invasive Aesthetic Plastic Surgery & Dermatotomy (MIAPSD)
President of China Alliance of Acne (CAA)
Member of Asian Acne Board (AAB), and Global Alliance of Acne (GA)
President (2017-2020), Asian Society of Pigment Cell Research (ASPCR)
Council member (2017-2020), International Federal of Pigment Cell Society (IFPCS)
Council member, Asian Dermatological Association (ADA) (2020-2023)
Committee member, Asian Academy of Dermatology and Venerology (AADV)
International fellow, American Academy of Dermatology (AAD) 2006
International member, European Society of Dermatology and Venerology (EADV)
Secretary in general, International Chinese Dermatologist Association (ICDA)
Section editor (2008-2012), Journal of Dermatological Science (JDS)
Editor, Journal of Dermatology Endocrinology
Peer reviewer, Archives of Dermatology, British Journal of Dermatology, JAAD, PDPDT, etc.



一般社団法人
国际抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine



太田裕貴 (Hiroki Ohta)
東京慈恵会医科大学
総合医科学研究センター 再生医学研究部
サンフィールド医院

【抄録】

2012年の山中伸弥氏ノーベル賞受賞を契機として、再生医療は世界的な注目を集め、幹細胞治療も急速な発展を遂げています。日本では当初法的規制が未整備でしたが、2013年「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」制定により、現在は厳格な管理下で実施されています。

演者は東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター再生医学研究部講師として基礎研究に従事する一方、サンフィールド医院統括院長として第一線の臨床に携わり、研究と実臨床を両輪とした幹細胞治療のエキスパートです。サンフィールドクリニックは2011年開設以来、日本屈指の幹細胞治療専門施設として発展し、現在は動脈硬化症と慢性疼痛治療に特化しています。

東京慈恵会医科大学では、演者が中心となって幹細胞治療の有効性に関する包括的検証を実施しており、基礎研究と臨床データの解析を進めています。本講演では、日本における幹細胞治療の現状と法的枠組みを整理した上で、当院の治療プログラムの詳細と、これまでに得られた臨床成績を具体的にお示しします。さらに、大学での最新研究成果を複数供覧し、エビデンスに基づいた幹細胞治療の将来展望について、実臨床の視点から具体的な可能性と課題を提示いたします。再生医療の実用化に向けた現在進行形の取り組みを、研究者かつ臨床医の双方の立場からお話しします。

【略歴】

2001年に東京慈恵会医科大学を卒業し、同年より国立水戸病院（現・国立病院機構水戸医療センター）で初期臨床研修を開始した。その後、2005年に東京慈恵会医科大学附属病院外科レジデントとなり、2006年から附属第三病院外科、2007年から本院の外科学講座血管外科に所属し、血管外科分野における専門性を深めてきた。

2017年には東京慈恵会医科大学大学院を修了し、医学博士の学位を取得。2018年からは東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター再生医学研究部の助教として研究活動を開始し、2021年より講師。これまでに医師免許、外科専門医、脈管専門医・指導医、血管内治療認定医、再生医療認定医、腹部および胸部ステントグラフト指導医など、多数の専門資格を取得している。

研究では、ラットを用いて脳梗塞をはじめとする虚血性疾患に対する新規治療法の開発を目指し、独自に開発した方法でモデル動物を作製している。これにより、再生医療を中心としたさまざまな治療介入の前臨床評価を行っている。また、小型霊長類であるマarmoセットを用いた前臨床研究にも取り組み、ヒトへの応用を見据えた橋渡し研究を推進している。

【所属学会・所属団体】

日本再生医療学会認定医
日本外科学会専門医
日本脈管学会専門医/指導医
日本血管外科学会血管内治療認定医
ステントグラフト指導医
麻酔科標榜医





須賀 康 (Yasushi Suga)
順天堂大学浦安病院皮膚科教授

【抄録】

炭酸ガスレーザー（波長10,600nm）は、水分への高い吸収特性を活かし、蒸散・切開・凝固によって皮膚良性腫瘍を効果的に除去する美容皮膚科治療として広く用いられている。母斑細胞母斑、表皮母斑、脂漏性角化症などの良性小腫瘍に対し、本レーザーは止血効果とともに、従来の外科的切除に比べて瘢痕形成や術後疼痛、出血が少ないといった整容的利点を有する。特に顔面や体幹部において良好な治療成績が報告されている。一方で、紅斑、びらん、浮腫、疼痛、二次感染などの急性期の副作用に加え、炎症後色素沈着、色素脱失、瘢痕形成（肥厚性瘢痕・ケロイド）、上皮化遅延などの中長期的合併症も認められている。また、過剰あるいは不十分な照射深度による腫瘍の残存・再発、悪性腫瘍の鑑別不備による診断の遅れも課題である。美容医療診療指針（改訂版）では、本レーザーの高い有効性を評価しつつも、リスク回避のためには適切な照射設定と術後管理が不可欠であると強調している。さらに、治療前にダーモスコピーを併用することは診断精度を向上させ、悪性腫瘍の見逃しを防止する手段として有用である。

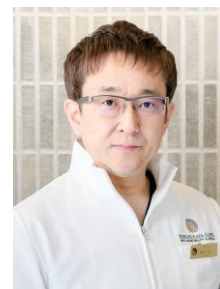
【略歴】

1987年 順天堂大学医学部卒業
1992年 順天堂大学医学部大学院卒業
1995～1998年 米国テキサス州ベイラー医科大学に留学 帰国後は順天堂大学皮膚科の講師、助教授を経て
2007年 順天堂大学浦安病院皮膚科学教授
2009年 順天堂大学医療看護学部教授(兼任)

【所属学会・所属団体】

日本皮膚科学会(専門医、美容皮膚・レーザー指導専門医、指導医、代議員)、日本研究皮膚科学会(評議員)、日本美容皮膚科学会(理事長)、日本香粧品学会(理事)、角化症研究会(事務局長)、浦安皮膚臨床懇話会(事務局長)、日本小児皮膚科学会(運営委員)、日本レーザー医学会(副理事長、専門医、指導医)、日本レーザー治療学会(理事、専門医、指導医)、日本医真菌学会(代議員、専門医)、日本乾癬学会(評議員)、日本皮膚悪性腫瘍学会(評議員)





根深研一 (Kenichi Nebuka)
医療法人社団研裕会 理事長
紀尾井町プラザクリニック歯科・美容外科 院長
歯学博士

【抄録】

日本は超高齢社会に突入し、抗老化医学の重要性が一層高まっています。口腔の健康は全身の健康寿命と密接に関わり、慢性炎症の制御やフレイル予防に直結します。MeDeS®口内除菌プログラムは、従来の対症療法ではなく口腔細菌バイオフィームに直接アプローチする原因療法であり、臨床研究により炎症マーカーや全身状態の改善が報告されています。

医科歯科連携は、周術期管理や高齢者ケアに加えて、自由診療を基盤とした美容医療・アンチエイジング医療・栄養療法・再生医療にも広がりを見せています。特に近年注目される機能性医学の概念を歯科に導入し、口腔を全身の代謝・免疫・炎症制御と統合的に捉える「機能性歯学」として臨床応用する試みが進められています。

本講演では、MeDeS®口内除菌プログラムの科学的根拠と応用例を紹介するとともに、医科と歯科、美容・栄養・再生医療・抗加齢医療を結合した実践的モデルを提示します。「口腔から始まるアンチエイジング」という新しいパラダイムを共有し、医師と歯科医師が協働して機能性医療を展開する未来像について議論します。

【略歴】

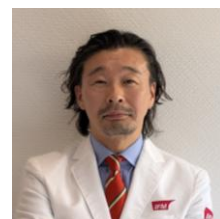
2006年、歯科に美容外科・形成外科・美容皮膚科・内科を併設し、医科・歯科連携のパイオニアとして「紀尾井町プラザクリニック歯科・美容外科」を開設。2008年医療法人社団研裕会理事長。2019年鶴見大学国際口腔保健学寄附講座教授。現在は20年間にわたる医科歯科連携クリニックの経験を生かして、口腔環境から全身の健康を増進し、健康寿命の延伸を目的とした「口内除菌」を、大学・企業と研究、提唱している。

【所属学会・所属団体】

国際抗老化再生医療学会（理事）
日本美容内科学会（評議員）
日本抗加齢医学会
日本口腔インプラント学会
日本歯周病学会
日本口腔衛生学会
日本歯科保存学会



斎藤糧三 (Ryozo Saito)
斎藤クリニック院長
株式会社日本機能性医学研究所所長



【抄録】

メンタル不調の背景にある慢性神経炎症に対し、 β -ヒドロキシ酪酸 (BHB) を主成分とするケトンサプリと、間葉系間質細胞培養上清液 (MSC-CM) を併用する戦略の理論と実践を概説する。間葉系間質細胞培養上清液に含まれるサイトカインによる、ミクログリア表現型の調整、神経保護・可塑性促進、血液脳関門の保全と血流改善が期待され、また、自律神経機能指標 (HRV) の改善傾向も観察される。一方BHBは代謝炎症の抑制と神経エネルギー支援を担い、うつ・不安・ブレインフォグなどに対する症状改善を症例群から示唆する。講演では、自施設での経験をもとに「インフラマトリックス16」に基づく原因評価の枠組み、栄養・睡眠・運動介入との最適な組み合わせ、投与プロトコルの考え方、安全性と限界、今後の検証課題を整理し、現場実装に資する実践指針を提示する。

【略歴】

1973年生まれ。1998年日本医科大学卒、産婦人科を経て機能性医学・栄養療法・点滴療法・ホルモン療法を統合した臨床に従事。

2008年に日本機能性医学研究所を設立 (2009年法人化)、2018年に株式会社ライフクエストを設立、2021年には順天堂大学と共同で「デジタルセラピューティクス講座」を開設、2022年に機能性医学と再生医療を融合した「斎藤クリニック」を開設。

著書に『サーファーに花粉症はいない』 (小学館)、『慢性病を根本から治す「機能性医学」の考え方』 (光文社新書)、『ケトジェニックダイエット』 (講談社) など。

【所属学会・所属団体】

2014年、日本で初のIFM (The Institute for Functional Medicine) 認定医





谷川 啓司(Keishi Tanigawa)
バイオセラクリニック院長
東京女子医大・消化器外科外科講師

【抄録】

がんは細胞分裂の過程で生じる遺伝子変異を契機に無限増殖能や転移能を獲得し、発生部位や転移巣に腫瘤を形成して重要臓器の機能障害を引き起こす疾患である。一方、がん細胞は変異遺伝子由来のタンパク質や、増殖能亢進により正常細胞には存在しない異常タンパク質を発現し、免疫系に異物と認識されうる抗原性を持つが、その抗原性は弱く、十分な免疫応答は誘導されず抑制効果も不十分である。

免疫療法はこの弱い反応を増強する手段として発展してきた。樹状細胞ワクチンはその代表例であり、私たちはこれまでがん患者に対し積極的に実施してきた。チェックポイント阻害薬と異なり重篤な副作用は極めて稀で、安全性が高い治療である。

樹状細胞ワクチンは弱い抗原を選定して提示し、強い免疫応答と記憶形成を誘導する。利用する抗原には、がんDNAの全エクソン解析から推定されるネオアンチゲンや、正常遺伝子由来でありながら発癌過程で高発現するがん関連抗原がある。ネオアンチゲンは腫瘍がなければ同定できないが、がん関連抗原には多くのがん種に共通して発現するものが存在する。

この特性を応用し、発癌可能性の高い人に共通抗原を事前に提示することで、将来の発癌時に迅速かつ強力な免疫応答を誘導し、腫瘍増殖を抑制できる可能性がある。日本人の生涯がん罹患リスクは男性63%、女性51%とされ、予防的介入の意義は大きい。今回、私たちは予防的免疫細胞療法を計画し、関東厚生局に申請・受理された。本手法が罹患率低下や治療効果向上に寄与することを期待する。

【略歴】

- 1990年 3月 防衛医科大学卒業
- 4月 東京女子医科大学消化器外科入局
- 1996年 3月 東京女子医科大学消化器外科医療練士修了 消化器外科助手
- 4月 米国シガン大学腫瘍外科において免疫細胞療法、遺伝子治療の研究にresearch fellowとして従事 CTL療法、癌ワクチン、樹状細胞ワクチンの研究に携わる
- 1998年 4月 同シガン大学腫瘍外科のsenior research fellowとして同研究を継続しつつ、同大学の医師・大学院生を指導
- 1999年 8月 米国シガン大学senior research fellow終了
- 9月 東京女子医科大学消化器外科帰局
以後、東京女子医科大学消化器外科において外科医としてだけでなく癌免疫細胞療法チームとして癌免疫細胞療法の臨床研究に携わる
樹状細胞ワクチン、樹状細胞腫瘍内局注療法など多数の臨床試験を開始
- 2001年 5月 東京女子医科大学医学博士号取得
- 8月 癌免疫細胞療法施設バイオセラクリニックを開設
- 2007年 5月 東京女子医科大学消化器外科講師（非常勤）

【所属学会・所属団体】

日本外科学会認定医、日本消化器外科学会認定医、日本ハイパーサーミア学会認定医
日本癌学会、日本癌治療学会、日本バイオセラピー学会（評議員）、日本外科学会、日本消化器外科学会、アメリカ癌学会（active member）、アメリカ臨床腫瘍学会（active member）、NPO法人NHPインターナショナル認定機構（理事長）、癌免疫外科研究会（施設代表者）、Society for Immunotherapy of Cancer（SITC）、樹状細胞免疫療法懇話会（理事長）、日本ハイパーサーミア学会（評議員）



自己多血小板血漿（PRP）療法の現状と新しいPRP分離法



久保田潤一郎 (Junichiro Kubota)
久保田潤一郎クリニック院長

【抄録】

血小板は数々の成長因子を含み、活性化することで、創傷治癒の初期から関与していることが知られている。自己血を遠心分離して得られる血清の中で、全血に比較して血小板数を倍加した血漿を多血小板血漿（以後PRPと略す）と称している。このPRPを骨の早期癒合や潰瘍の治癒促進に応用したのがPRP療法である。

我々は外来診療において老化した皮膚の修復にPRPを応用できないかと考え、しわ、たるみ、しみ、薄毛などの症状に対してPRPを皮膚浅層に注射する方法を考案した。その結果、従来の方法では治療が困難であったいわゆるちりめんジワなどの老化症状の改善が認められた。現在は美容領域だけでなく、歯科や整形外科領域に普及しており、その現状と問題点を報告する。

次に、最近製品の輸入が開始されたPRP作製キットについて現在知りうる事項を紹介する。本製品は遠心分離した自己血清を特殊フィルターに複数回通すことで水分と血小板を分離する。また、血小板の活性化を促し、各種の成長因子やエクソソームを多量に含むPRPを簡単に作製するキットという謳い文句である。解析結果では全血に比較し2倍以上のPRPを得ることができる。またPRP内に血小板以外の細胞成分を含まず、Pure PRPに属すると考えられる。皮膚においては術後に発赤や皮下硬結を伴わない経過を示した。推測の域を出ないが、実際に炎症反応を伴う関節炎や筋膜炎の治療に適する可能性がある。以上、報告する。

【略歴】

1978年3月杏林大学卒業
1979年4月慶応義塾大学医学部形成外科学教室入室
1986年1月同大学医学部退職
1986年2月杏林大学医学部助手（形成外科学）
1987年4月同大学医学部講師（形成外科学）
1989年4月同大学医学部専任講師（形成外科学）
1994年4月同大学医学部助教授（形成外科学）
2002年8月同大学医学部退職
2002年9月久保田潤一郎クリニック院長
現在に至る

【所属学会・所属団体】

日本形成外科学会専門医（～2025年3月）
日本美容外科学会（JSAPS）
日本レーザー医学会 永年レーザー専門医 永年指導医
日本レーザー治療学会 理事 指導医
日本美容皮膚科学会
特定非営利法人日本アンチエイジング医療協会
日本美容医療協会
1985年 昭和60年度三四会賞受賞 第98号（慶応義塾大学医学部三四会）
2002年 平成14年度著述賞受賞（日本医科器械学会）
自己多血小板血漿（PRP）に関する研究業績
松田秀則、久保田潤一郎：口周囲の老化皮膚改善のためのPRP注入療法．形成外科：55:1293-1301, 2012.
松田秀則、久保田潤一郎：PRP注入療法の実践—Skin RejuvenationとしてのPRP療法—：PEPARS: 75: 146-153, 2013.
久保田潤一郎：再生医療 PRP療法：PEPARS: 99: 139-146, 2015.
編集著書「実践 皮膚レーザー療法」（永井書店）「若返り美容医療の実践」（永井書店）



一般社団法人
国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

清水 章 (Akira Shimizu)
日本医科大学 解析人体病理学
大学院教授



【抄録】

生体では全身で、絶えず傷害と修復が繰り返されている。傷害を受けると、臓器や組織では障害に対し適応機構が働くが、傷害の程度により臓器や組織では変性・細胞死が起こり機能障害を伴う病変が形成される。病変が形成された傷害組織では、その後に修復が進むが、治癒にいたるまでの過程を創傷治癒という。創傷治癒過程は大きく滲出性炎、増殖性炎、再構築期の3期に分けられ、それぞれoverlapしながら増殖因子や多くのサイトカインが複雑にネットワークを形成しながら修復反応が進む。滲出性炎では、血管内への血小板の凝集、血管内からの滲出液が組織間に広がり、好中球などの炎症細胞の動員と血管外への遊走が起こる。増殖性炎では障害細胞の再生とともに血管新生や線維芽細胞などの間質細胞の増殖、炎症細胞浸潤も加わり肉芽組織を形成、細胞外基質の蓄積など、欠損組織の補充が行なわれ修復、再構築が進む。この一連の過程が炎症反応で、病理学では、組織障害・適応・炎症・修復を一連の過程として扱っている。修復機転には障害臓器や組織が正常に戻る完全修復・完全治癒と、瘢痕形成を残し、機能障害を伴う不完全修復・瘢痕治癒があり、これらを規定する要因として障害細胞の再生能力が重要である。組織・臓器障害後の修復過程には再生能力に加え、老化や細胞老化も大きく関わっている。傷がきれいに治ることは、生物にとって生命の根幹に関わる重要なことで、傷害組織の完全修復・治癒にはそれぞれの細胞の再生能力の増強や老化による細胞機能の低下の防止(抗老化)が望ましい。

【略歴】

1985年 金沢医科大学
1988年 日本医科大学
1995年 Research Fellow, Departments of Pathology (Dr. Robert B. Colvin), Massachusetts General Hospital/ Harvard Medical School
1998年 日本医科大学, 病理学第一助手
2000年 日本医科大学, 病理学第一講師
2003年 Instructor, Transplantation Biology Research Center (Dr. David H. Sachs), Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School
2005年 日本医科大学 病理学第一助教授
2006年 日本医科大学 解析人体病理学 (旧病理学第一) 准教授
2013年 日本医科大学 医学部 病理学 解析人体病理学, 大学院教授

【所属学会・所属団体】

日本病理学会、日本腎臓学会、日本腎病理協会、移植腎病理研究会、日本臨床腎移植学会





佐藤 茂 (Shigeru Sato)
国際抗老化再生医療学会 理事長代行

【抄録】

パーキンソン病の病理学的特徴は中脳黒質のドーパミンを合成・分泌するドーパミン神経細胞の変性、壊死・消失である。また、ドーパミン神経細胞内にレビー小体の出現あるいは血液脳関門の崩壊が見られる。

パーキンソン病の動物モデル実験によるMSCsの効果

- ①ドーパミンを増加させた。
 - ②上清液「BDNF, IGF-1, VEGF, Pigment epithelium-derived factor (PEDF), DJ-1, and Cystatin-C」やエクソソームはドーパミン神経細胞を保護する
 - ③ α -シヌクレインの合成を抑制し、凝集した α -シヌクレイン（レビー小体）を分解する。
 - ④血液脳関門の血管内皮細胞やアストロサイトの障害を正常にする。炎症を抑える。
- パーキンソン病の動物モデルにMSCs投与することによりドーパミンが増加することから、MSCsは神経様幹細胞やドーパミン神経細胞に分化すると考えた。しかしながら、MSCsがドーパミン神経細胞や他の神経細胞に分化したとされる直接的な事実は知られていない。MSCsより分泌されたサイトカインや増殖因子によりパーキンソン病を治癒すると考えられる。

MSCs投与による臨床例

パーキンソン患者にMSCs 投与後効果が見られるのは少なくとも6か月は必要である。

- ①ドーパミンや他の神経伝達物質が増加して病気の進行を遅らせた。
- ②パーキンソン病統一スケール(UPDRS)の値は重度から中等度になり、手の震えは軽微となり言葉は明瞭になった。

【略歴】

1978年 東京農業大学博士課程修了、農学博士取得
1978年 日本医科大学中央電顕顕微鏡共同研究施設助手
1981年 米国シンシナティ大学医学部薬理学講座 客員教授
1985年 医学博士取得
2008年 日本医科大学形態解析共同研究施設講師
2014年 国際抗老化再生医療学会 理事
2019年 国際抗老化再生医療学会 理事長
2024年 国際抗老化再生医療学会 理事長 代行 現職

【所属学会・所属団体】

国際抗老化再生医療学会





上坂 元 (Hajimu Kousaka)
米Googleアドバイザー

【抄録】

テレビから24時間いつでもどこでも手中で情報収集が可能となったインターネットを中心とした社会に変革した現在。一瞬でヒットしたり、一瞬で叩かれたりする、この混沌した国内、海外情報の中心地で現在までヒットさせてきた企業や商品の事例をあげながら、今求められるものとはなにか？そしてトラブルになった場合、どのように対応するかなど、SNSプランニングから対策までをお伝えします。

またインターネットを含め多数のメディアがある中、メディアの選択方法からアプローチ方法まで、メディア対策の基礎から応用について、広告宣伝だけではなく、広報の方法について、各企業などの立場からどう対応していけば良いか、またインフルエンサーの利用方法やインバウンドの受け入れを増やす方法などお話しさせていただきます。

また抗老化再生医療業界に関係する厚労省などへの働きかけの方法など、この時代に業界が置かれているリスクとリスクヘッジの方法など、補助金を利用し海外展開する方法など政治的、戦略的、そして安定的に事業拡大する方法、視点を変えることの重要性についてもお話しさせていただきます。

【略歴】

東京大学法学部卒 産経新聞社入社 政治から芸能まで様々な分野を担当、デジタルメディア担当副編集長や情報番組でニュース解説、テレビ番組の総合プロデューサーなど歴任。新聞社を早期退社後、総合コンサルティング会社を立ち上げテレビやラジオなどパブリックリレーションを中心にコンサルを行う。特に出版コンサルとして100冊以上担当し、Amazon1位を連続10回取得。現在は上場企業を中心にリーガルアドバイスや税務、政界や各省庁とのパイプを活かし政務渉外を含め日本だけではなく海外でも課題解決。趣味はアートコレクション、4000点以上の作品を所有。

【所属学会・所属団体】

株式会社杳音 代表取締役会長
株式会社サラギャラリー 代表取締役会長
完全紹介制会員サロン『春が咲く』（銀座に2店舗）主宰
TikTok シンガポール本社 アドバイザー
株式会社電通 アドバイザー
パリジェンヌ 顧問
財団法人の理事など多数の企業や団体の顧問を兼任



発声医学療法の可能性

野口千代子 (Chiyoko Nogichi)
日本発声医学協会会長



【抄録】

発声医学療法は発声障害の治療を目的としたものであり、呼吸器疾患あるいはオーラルフレイルについても治療効果が知られています。また、発声医学療法を含めた音楽療法が齢に伴う認知症やうつ病に対する効果が示唆されるようになりました。ここで紹介する発声医学医療は運動(体操)を取り入れた音楽療法であり、副作用がなく身体に対する負担の軽いものです。そこで、対象を老人養護センターの入所者およびデイサービスに通う方に発声医学療法を行いました。その結果、発声とそれに伴う運動が対象者の脳に刺激を与えてくれることが示唆されました。

【略歴】

1956年生まれ 東京都出身
1976年：渡欧 ウィーン国際夏季ゼミナール修了
1980年：ウィーン国立音楽大学大学院発声学科(教育専攻)修士課程卒業
オーストリア国家資格取得
ブルックナー音楽祭ディレクター、文化交流事業を展開
ウィーン大学で医学を学び、講師をしながら多方面で音楽プロデューサーとして活躍
発声学・発声医学専門家 音楽教育家。音楽プロデューサー
東京都教育研修センターキャリア教育講師
公立中学校合唱コンクール客員審査員、など各地で活動
国際ロータリークラブ、国連NGO PPSEAWA、社会保険協会、東京都教育研修センターなど企業講演多数
「身体に良い声・歌」をコンセプトに、一般の人からプロまで発声学の普及と指導、また後進の育成に努めている
著書に『誰でも2オクターブ出るヴォイストレーニング』（平凡社新書）

【所属学会・所属団体】

一般社団法人日本発声医学協会代表



一般社団法人
国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

<企業展示>



株式会社クレア



ブルーオーシャン株式会社



メトラス株式会社



株式会社ウィズ・アス



株式会社ビューウェル

<企業協賛>



株式会社ジェイメック

<共催>



特定非営利活動法人日本美容皮膚研究会

医信株式会社

医療従事者と受診者の双方が安心し、満足できる環境を提供することを使命として、幅広いサービスを展開しております。受診のコーディネート、医療通訳、診療報告書の翻訳、再生医療など、多言語・多文化に対応した支援を行っています。また、医療渡航支援企業として、外国人受診者に対して質の高いサポートサービスを提供し、日本で安心して医療サービスを受けられる体制を整えております。さらに、医療機関との円滑な連携や、患者様のご要望に応じた医療施設のご提案など、きめ細やかな支援も行っております。



株式会社ウィズ・アス

「美容を通じて人を幸せにすること」を企業目標とし、「美、健康、癒し」そして、「安全・安心」にこだわった商品を「顧客第一主義のもと最高のサービスと、最高メンテナンスの提供」を企業理念として参りました。そして昨今は、企業におけるブランド価値を非常に厳しく求められるようになっております。私どもウィズ・アスは、当初より掲げてきた理念をさらに高めるためのブランディング活動を行うために、「商品品質」「サービス品質」「知識」の更なる向上を目指します。



株式会社グラントイーワンズ

創業20年、美と健康をテーマに、補正下着、化粧品、栄養補助食品等、各種商品を開発、提供しています。私たちの商品は、素材にこだわり、身につける方の心に寄り添ったボディウェアづくりを心がけることを基本としています。昨年は、銀座にビューティークリニックをオープンし、予防医学として再生医療にも取り組んでいます。



株式会社クレア

美容医療からスポーツリカバリーまで、多岐にわたる分野に最新で高度な機器やサービスを提供。安全性と効果を重視し、唯一無二な経験と知識で業界のニーズに合わせた機器・サービスなどの提供を常に心がけています。*LDM機器 *水素吸引機など



株式会社グレースエフエー

幹細胞が研究されて久しく、再生医療の主役となりました。スキンケア、化粧品においても他の成分と一線を画する注目を集めています。GFA は幹細胞化粧品の第一人者であるべく努力を続けています。フェイシャルだけでなく髪から爪まで化粧品、医薬部外品の企画、開発、製造は GFA にお任せください。



株式会社ケイ・エス・ジャパン

23年間の美容・薬剤研究、カウンセリングの実績を持つ弊社代表が『すべての人に自然な健康と自分らしい輝きをもつ美を叶えたい』という願いから生まれた会社です。弊社では、Blanche Blancheという化粧品のオリジナルブランド展開をおこなっています。



株式会社セラバリュース

世界中の人々の、健やかで質の高い生活を実現するために、独自の技術による先進的な機能性食品原料や製品の開発、提供および販売しており、多くの医師の方にセラクルミンの製品をご紹介頂いております。



トキリン株式会社

トキリン (TKILYN) 株式会社は、生命科学と最先端テクノロジーを融合し、新たなエイジングケアの可能性を追求するグローバル企業です。Made In Japanの安心、安全のもののづくりで、エイジングケアに特化したサプリメントとスキンケア商品のブランドBIOAGENを展開しております。「心豊かに 健康に 美しく 笑顔溢れる未来」を理念に掲げ、年齢や環境にとらわれない真の美しさをサポートする製品・サービスを提供しています。



日楓堂（海南）国際貿易有限公司

日本の良質な製品を中国で販売しています。特に海南島の税関特区にて扱う際には日本の製品は人気があります。化粧品、健康食品（サプリメント）を仕入れています。国際抗老化再生医療学会に在籍されている専門家の先生が監修された製品を、今後も広く販売できればと思います。



株式会社日本薬店

健康食品の研究、開発、販売をメインに展開。発育をサポートするお子様のサプリメントや、製薬会社様と共同開発した医療品・健康食品も豊富に取り扱いご提供いたしております。



株式会社ビューウェル

社名であるBeauwellはbeauty&wellnessからの造語です。多くの人の健康寿命を延ばすこと、美の創造により人々が生きる活力が増していくこと、ビューウェルができること全てに挑戦していきます。

化粧品：バストールブルー美容液や各種サプリメントを販売しています。



杭州禾本木健康管理有限会社

杭州禾本木健康管理有限会社は美容、医療、アンチエイジングを3本の柱として展開するグループ企業です。中国、米国、日本の複数の大手病院、美容関連協会、医学研究所、再生医療研究所など多くの専門機関と連携し、安全かつ専門的な個別化医療及び健康、美容、アンチエイジングサービスを提供しています。



株式会社マインドシェア

再生医療を提供している医療機関を、簡単に探せるポータルサイト「再生医療サーチ」を運営しております。

月間10万PVを超えており、一切の作業負担もなく月に1万円～SEO対策を行なえ、半年間で70件以上の問い合わせに繋がっております。

再生医療業界、再生医療に携わる医療機関さまに貢献してまいります。



ロート製薬株式会社

ロート製薬は、OTC医薬品・スキンケア・機能性食品・再生医療など幅広い領域で事業展開しています。再生医療事業は、スキンケアの研究開発による「細胞を扱う技術」と目薬を製造するための「無菌製剤技術」を元に独自の技術開発を行い、クリニック専売スキンケア「ダーマセプトRX ステムアドバンス」を販売しています。



アウトバーン株式会社

グロリアス株式会社

株式会社コスモクオークインターナショナル

中和産業株式会社

株式会社童童アカデミー

株式会社バイオミメティクスシンパシース

<役員一覧>

理事長	尾見 徳弥	(クイーンズスクエアメディカルセンター皮膚科)
理事長代行	佐藤 茂	(日本医科大学 中央電子顕微鏡施設 元講師)
執行理事	劉 効蘭	(医学博士、医療法人社団みき会 理事)
理事	山本 有紀	(和歌山県立医科大学 病院教授・皮膚科准教授)
理事	須賀 康	(順天堂大学医学部附属浦安病院 皮膚科学教授)
理事	清水 章	(日本医科大学 解析人体病理学 大学院教授)
理事	根深 研一	(医療法人社団研裕会 理事長)
理事	斎藤 糧三	(齊藤クリニック 院長)
理事	細野 孝郎	(細野漢方診療所 院長)
理事	平良 茂	(医療法人白寿会 理事長 ハートフルクリニック院長)
理事	元田 剛	(ハートワン動物病院グループ 代表)
理事	ガジザデ・モハマッド	(日本医科大学老人病研究所分子病理学部門 元准教授)
理事	金山 光明	(池袋光明クリニック 院長)
顧問	Leihong (Flora) Xiang M.D., Ph.D.	
		(Professor, Department of Dermatology, Huashan Hospital, Fudan University)
顧問	Qiong Zhao M.D., Ph.D.	
		(Concurrently the Shulan International Medical College of Zhejiang Shuren University Vice Dean)
監事	月岡 秀彰	(日本鍼灸協会 理事)
事務局長	野村 尚伸	



BWサプリメント

環境の変化やストレスを感じやすい現代社会。
ビューウェルのサプリメントシリーズは、そんな日々の小さな不調や悩みに効果的にアプローチし、あなたのライフスタイルをサポート。
健やかで心地よい毎日へと導きます。

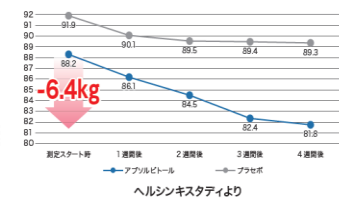
【お問合せ】
株式会社ビューウェル
E-mail: info@beauwell.net
TEL: +81-03-6205-4571
FAX: +81-03-6205-4572



リポトリム

体重減のヒト臨床試験

● 20名で行われた無作為二重盲検プラセボ対照試験においてアプソルビートル群は4週間で平均**-6.4kg**の体重減が報告されました。



試験概要:

- ✓ 被験者は該当する年齢、性別、身長から15%以上過体重のヒトが選ばれ、1日950 ~ 1,000 kcalの食事制限された。
- ✓ 1日主要な2回の食事前に4カプセルのアプソルビートル(960mg)もしくはプラセボを摂取。
- ✓ 試験期間中は運動はしない
- ✓ 1週間ごとに体重、血圧を計測

▶ ダイエット者におすすめのリポトリム

- ✓ 油を吸着させるアラスカ産キングクラブのみを使用したキトサン
 - ✓ 血糖値の上昇を防ぐサラシア
 - ✓ 血中中性脂肪の上昇抑制、脂質の吸収を穏やかにするトルラ酵母由来食物繊維
 - ✓ 肝臓脂肪蓄積抑制の特許を持つ(特許No4568809号)ブルーベリー葉
- 4つの柱でダイエット者をサポートします

【グルタチオンに期待される効果】

● 肝機能

- ・肝臓の解毒機能をサポート
- ・抗炎症作用

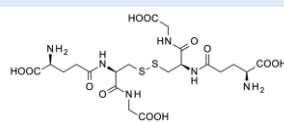
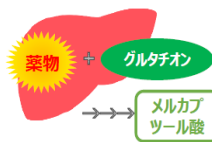
● 美容

- ・抗酸化(活性酸素を中和)
- ・しみの原因となるメラニン合成の阻害
- ・コラーゲン生産

● 運動疲労

- ・抗酸化: 運動により増加する活性酸素を中和(ミトコンドリア、骨格筋)

グルタチオンは解毒剤として、医薬品で使用されている



▶ 抗酸化機能のアップに特化したデトキシプラス

加齢やストレス、生活習慣により発生する「酸化ストレス」は細胞を酸化させ、老化やがん、心血管疾患、生活習慣病など、さまざまな病気のリスクを増加させる可能性があります

健康で若々しい体を保つため、抗酸化物質を取り入れることをおすすめします



デトキシプラス

抗酸化に効果の高い2大成分が肝臓機能をサポート

- ①グルタチオン含有の三菱ライフサイエンス社トルラ酵母を配合
- ②抗酸化効果の高い豚のレバーを低分子化した肝臓エキスを配合

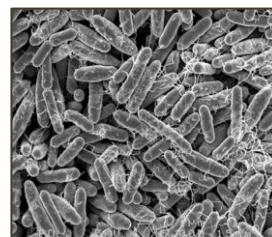
▶ 腸活・腸育サポートのフローラプラス

● 第二の脳といわれる腸の環境改善に特化。免疫力アップを目指します

- ✓ 酪酸菌: 腸内を弱酸性に保ち、有害な菌の増殖を抑制、腸の粘膜免疫を活性化
- ✓ ビフィズス菌: 高菌数かつ保存安定性に優れた生菌末、森永M-63を使用
- ✓ 水溶性食物繊維が豊富なイヌリン、多くのアミノ酸群等を含むビール酵母の相乗効果で腸内環境作りをサポート



フローラプラス



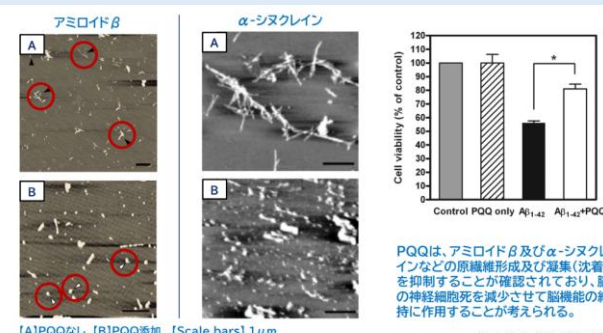
<酪酸菌>



<ビフィズス菌 M-63>

▶ 脳の認知機能をサポートする PQQ+γオリザノール

記憶力、頭の回転(注意機能)をサポート



PQQ+γオリザノール

新発売
2025.08.01

ナノ粒子化(特許取得)された
“γ-オリザノール”を配合

ナノ化されたγ-オリザノールは軽度認知機能障害を予防・改善することが明らかにされています

*認知機能改善剤及び認知機能改善経口組成物として特許を取得【特許第7426036号】



<問合せ>

一般社団法人国際抗老化再生医療学会
事務局
〒135-0064 東京都江東区青海2-4-32タイム24ビル18階
03-6205-4344
info@waarm.or.jp



一般社団法人
国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine